とある男の背景

在形　直

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
とある男の背景

【Ｎコード】
Ｎ０２４６Ｎ

【作者名】
在形　直

【あらすじ】
橙乃ままれ様の　”ログ・ホライズン”の２次創作モノ　短編です。
…すみません、勢いで書いてしましました。
本編の最初に出てくる情けない男をモチーフにしています。
ぜひ本編を読んでから、お読みください。

あと作者様に許可をまだ得ていないので、後で削除するかもしれません、その点はご了承の程お願いします。

（前書き）

橙乃ままれ様の”ログ・ホライズン”の2次創作モノです。
…すみません、勢いで書いてしましました（本当に勢いだけです…）
。
本編の最初に出てくる情けない男をモチーフにしています。
ぜひ本編を読んでから、お読みください。

あと作者様に許可をまだ得ていないので、後で削除するかもしれま
せん、その点はご了承の程お願いします。

ドン　ドン　ドン　「うるせぇんだよ！」
安アパートの薄壁で、隣の音にイラつき壁をたたく一人の男。
２０代後半と思われるくたびれた男は悪態をついた。

壁にいくつか穴があるのは、たぶん力加減と感情を抑えることができなかったのだろうが、それすらも相手のせいだと思う彼は、あらゆる事に不満のある欲求不満の化身。
そういう彼の座右の銘は「世の中かね」で、最近は「楽して儲けろ」をポリシーにしている。
しかもそれを”彼の２０年余に及ぶ人生哲学の集大成”だと、真面目に考えているらしい。

『ピンポーン♪』玄関のチャイムが鳴る

ん？隣のほそっちょろい奴かいな？
えぇ根性してんなぁ、いつもオドオドしてるくせにのぉ、ほっほ～♪

ガチャ、、、玄関を開けると、そこには、、大男がいた…

…誰？

（思考停止）

一瞬の沈黙、大男のドスの効いた声が聞こえてくる…
…えっ？…隣の細男の関係者ですか…俺がうるさくて迷惑だって？。

「あぁはい、ちょっとよろけて壁にぶつかってしまって」

…ピコーン　ピコーン　頭の中で何かの警告音がしている　危険・危険・危険…

「静かにしろと？　えぇ～と…えぇ！おっしゃる通りです。本当に…すみません…」

…とにかく笑顔だ、笑顔だ俺！スマーイル！ユーモア！ジョーク！

「え？馬鹿？いぇいぇ…はぃ　全く…
ほんと僕って馬鹿かも、なんちゃって（笑）、、、いぇ馬鹿です…（泣）」

…ヤベぇ　この筋肉野郎、危険すぎる、えっ？おぃ！やめてよ…

大男の丸太の様な腕が男の胸元に延び、そしてつかまえ…ゆっくりと持ち上げられる。

（く、くるしぃ…息が、、息がぁ…）

…ピコーン　ピコーン　ピコーン

…カラータイマー消えちゃう、消えちゃうよ、駄目もう駄目…

「すぅ、スィませぇん、、暴力はぁん、、、いぇ、、ゅるしてくやさぃ、、」

「はぁぅ、、ごめんなさぃ、ぃ、、本当ぃごめぃわくをぉ、おねがぃしまぁす…」

必死の嘆願によって同情を呼んだのかわからないが、大男は手を放した。

それから肩をポンと

「隣同士なんだから　お互い気を使いながら生活しないと、な！」

と、からっとした笑顔で一言。

大男が帰る間際、その後ろでにやけた細男が見えた。

…ハァハァハァ、、てめぇ、いたのかよ。
…てゆうか　すっぽり隠れるってどういう細さだよオイ！
…おととい来やがれっての！俺が本気だしたらなぁ！覚えてろ！この腑抜け野郎！

負け犬のセリフが全て含まれる様なセリフをよく綺麗にまとめたものだ。
ドアを閉め、生きている事に感謝のひと時を実感する男。
そして「ふぅ　まぁこんなもんだな」青い顔で呟く。

『ドンドンドン』

「ひぃ！」
ドアの小窓から外の様子をそぉっと見る
…あぁ大家さんか、びびらすなよぉなっもぅ！
（勝手にびびっておいてイイ身分である）

「はぃ　なんでしょうか？」ゆっくりドアを開ける
「あら、中井さぁーん、小包届いてるわよぉ、はいコレ」
「あっどうも…ははは」
ドアを閉め　鍵をかけチェーンをかける。
「あー疲れたわ、無駄に疲れた…本当に世の中物騒だわ。」
肩を自分で叩きながら愚痴を言う所が全く情けない。

「まぁいいわ、こんな世の中～♪
俺の自由わぁ、俺のフリーダムわぁ～と♪」
男は訳のわからない歌を歌いながら、ＰＣ画面の　とあるアイコンをクリックした。

〈エルダー・テイル〉

「今日はなんと言っても追加パックよぉ」

満面の笑顔である。

そう彼が昨年からハマっているのが〈エルダー・テイル〉

そこでは彼の理想とポリシーが何とか形になったりする。

それはアングラプレー、いわゆる歪んだ楽しみをそこで堪能するのだ

具体的に言えば　それはＰＫ行為、又はお人よしな高レベルプレイヤーにおんぶにだっこ。

とにかく他人のふんどしで楽しようという…実に根っから腐った人間なのだ。

（オープニングのデモが流れ続ける）

「やっぱなぁ　ジャイアニズムは勝者の証、究極のプレイだよなぁ♪」

またも訳のわからない事を呟く男。

傍(はた)から見れば、あんたはジャイアンじゃなくてスネ夫だろと突っ込みたくなるが、それは置いておこう。

まぁ卑劣で卑怯な事を密かに楽しむのが、彼のスタイルなのだ。

「うるせぇ　俺は欲望に正直なだけだ！」

たまに勘の良い独り言も彼の特技だったりする。

（黒い画面に、輝く炎の文字）

その瞬間　強烈な光と共にイメージの渦が男を襲った…

「うっ！、眩しい！、目がぁ　目がぁ～！」

■

、、、ここは？、森？、いゃ廃ビル？
ふと男は自分の手に気付く。
、、、俺の手じゃねぇ、、でも動く、、どうなってんだ？
ゲームの中なのか？なんだこのリアルさは？俺はどうなって…おぃ
いおぃ、なんだ？

「なんだよ……っ」
…俺は狂ってるのか？
「お、俺っ。おかしい、なんだコレっ！？」
…ゲームの中ってよぉ　マジかよぉ？
「だ、誰か出てこいよっ！　責任者、おいっ！　聞いてるんだろう
っ」
天に向かってわめき叫ぶ男

———その様子を隣にいる一人の魔術師が、三白眼の目で哀れむ様
に男を見ていた。

…やめてくれぇ、そんな目で俺を見るなぁあ～！
歪んだ男の異世界での生活は始まったばかりだった…。

（後書き）

一応続きとしては、ギルド”ハーメルン”の創立メンバーの一人という妄想を膨らませていたり…

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n0246n/

とある男の背景

2010年11月22日10時35分発行